



ちばりは ニュース

2013年8月 発行 第14号
千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

一人ひとりを大切に、そして、世界のリハ看護へ ～看護局の取り組みを紹介します～

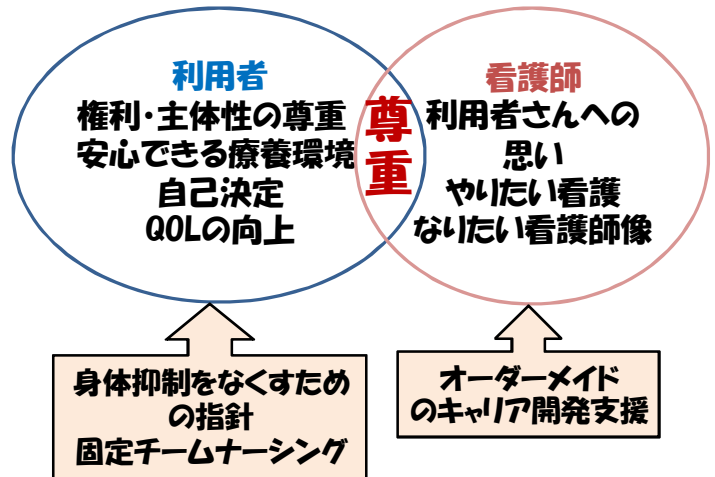
◇私たちは、利用者さん一人ひとりを大切にします。

そのために、身体抑制をなくすための指針に沿って、ベルトやミトンなどによる身体抑制を廃止してきました。

また、利用者さんと看護師の信頼関係を大切にするために、10～15名の利用者さんに対して、看護師も固定してチームで看護しています。

◇利用者さんを大切にし、尊重し合いながら看護を提供するためには、看護師一人ひとりがとても大切です。

当センターを選んで就職してくれた看護師は、それぞれに利用者さんへの思いがあり、やりたい看護があります。それを実現するために、一人ひとりに合わせたオーダーメイドのキャリア開発支援があり、大切に育ち合います。



◇地域のリハビリテーションセンターとして、リハビリテーション看護を担い、伝える役割があります。

<地域支援>

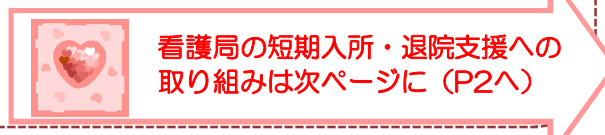
特別支援学校の生徒さんの学外活動などの医療的ケアへの看護師派遣、地域の専門職への技術指導などを行っています。

<リハビリテーション看護の普及>

- ・県内外の大学・大学院・養成校、その他リハビリテーション専門機関や看護協会などへ講師を派遣しています。(H24: 22名)
- ・大学・大学院生、看護学生の実習・研修などを多数受け入れています。(H24: 延428名、延日数1175日)
- ・海外研究者、大学院生や看護学生の見学実習も毎年受け入れています。



台湾の大学院生(看護師)と看護学生さんをお迎えして(H25年7月)



リハ看護は看護の原点

◆ 障がいのあるお子さん・重症心身障害者の方の短期入所サービス ◆



愛育園では、障がいのあるお子さんや重症心身障害者の方が、ご家族のさまざまな理由でご自宅でお世話するのが困難なとき、短期間入所いただくことにより在宅生活を支援しています。



◇短期入所をご利用される方一人ひとりに個性と理由があります。そのため、私たち看護師が大切にしていること…

- ・急に医療処置が増えた方に対し、ご家族と一緒に、お家で無理なく続けられるケアの方法を一緒に考え、ご自宅へ帰る準備をします。
- ・在宅生活をしている方からは、お家での過ごし方を詳しく聞き、なるべくご自宅と同じ様な環境で過ごしていただけるよう、愛育園での環境や生活を調整しています。
- ・利用者の方々に愛育園での生活に慣れて頂けるように、話しかけやスキンシップを多くし、ご利用者さん一人ひとりの伝えたいことを、丁寧に受け止めるようにしています。利用者さんご家族との信頼関係が築きやすいように、メンバーを固定して短期「チーム」でお世話をしています。



とびっきりの笑顔でお待ちしています！

利用者さんが笑顔で入所される時。元気でお帰りになるとき。ご家族から（看護師さんじゃなくて、ちゃんと名前で）「〇〇さんがいるから安心です」と言って頂いたときは、短期チームで働いていて良かったな、利用者の方々のためにもっと頑張ろうと思います。

◆ 多職種スタッフがタッグを組んで退院をサポート ◆



3AB棟は回復期リハビリテーション病棟です。脳卒中の急性期の治療を終えた方々に、機能回復訓練を提供し、在宅・地域生活への準備を支援しています。

「家に帰りたい」という本人の思い…
「家に帰らせてあげたい」というご家族の思い…
“何を整えるとその思いを可能にすることができるか”ということ

食事支援： 急性期の治療を終えて、点滴が入ったまま転院してくる方もいらっしゃいます。主治医、言語聴覚士、摂食・嚥下リクナースと一緒に、食べる・飲み込む機能の評価と訓練を進めます。

家屋訪問時、ご自宅に足を一步踏み入れたとたん、患者さんの表情は「患者さん」から「その家の人」に変わります。そういう瞬間に立ち会えたとき、また、多職種でタッグを組んで支援した患者さんへの退院後の電話訪問で、元気に過ごされているとうかがったとき、リハ看護をやっていてよかったな～と思います！

◇安心して自宅へお帰りいただくには、環境を整えることが大切です。そのため、退院前に多職種スタッフが家屋訪問します。

玄関アプローチの段差、トイレ・浴室手すりの必要性や設置位置について、どこにベッドを置いて、どう看守かなど、退院時の患者さんの回復状況を見据えてアドバイスします。
例えば、洗面所なども普通のご家庭のものは、車イスでは前がつかえてしまって、そのままでは使いにくいので、車イスが洗面台の下に入れるように改修をお勧めすることがあります。



10cm 踏み台

縦手すり設置予定。降りる時使用。

椅子を置き、座って靴の着脱をします。

ちょっとした工夫で、一人で外出できるようになりました！

新しくなった母子棟で母子入園が始まりました

愛育園では、肢体に不自由のある就学前のお子さんにお母さんとともに入園していただく「母子入園」を行っています。入園中、お子さんには機能回復のための訓練治療を行うとともに、お母さんには、自宅に帰られた後も一貫した療育が行えるようお手伝いすることを目的としています。

これまで母子棟では、相部屋の和室をご利用いただいておりますが、この度病棟の改修工事を行い、居室を畳からクッションフロアの全個室に変更しました。今年4月から新しい母子棟での母子入園がスタートしましたので、その様子をご紹介します。



楽しい保育の時間

明るくなったテイルームでの食事



相部屋から個室に
変わりました



居室は、ベッドではなく
クッションフロアに
お布団敷きです



母子入園では、お子さんの全体的な発達を促すため、専門スタッフが一つのチームとなって援助、指導を行っています。1ヶ月と2ヶ月のコースがあり、PT、OT、STなどの個別訓練のほか、摂食指導や合同保育、心理グループなどのプログラムが組まれています。

また、ソーシャルワーカーが退園後の在宅生活に向けてサービス調整を行い支援します。



